

北海道和牛振興戦略プラン

令和3年7月30日

北海道和牛生産戦略会議

目 次

I	はじめに	1
II	和牛を取り巻く情勢	2
III	振興方向	6
IV	推進方策	8
V	推進体制	12

I はじめに

- 北海道の和牛生産は、地域の和牛改良組合が全国の産地で育種改良された繁殖雌牛を導入し、厳しい自然環境に適した雌牛の保留を進め、生産者や関係機関が一体となって和牛改良を推進し、飼養頭数は鹿児島、宮崎に次ぐ全国第3位の産地に発展してきました。
- しかし、和牛の子牛の多くは肥育もと牛として府県に出荷され、枝肉の販売価格は全国平均を下回っており、和牛の改良やブランド化などの取組を推進し、日本を代表する和牛産地としての地位を確立していくことが課題となっています。
- さらに、和牛生産を取り巻く状況は、経営者の高齢化や農家戸数の減少、進展する国際化への対応や防疫体制の強化、新型コロナウイルス感染症の長期化への対応など多くの課題が生じています。
- 北海道が将来にわたり持続可能な和牛産地として発展していくためには、自給飼料の活用や飼養管理技術の向上、北海道らしい特色ある種雄牛の造成、産肉性・種牛性に優れる繁殖雌牛群の造成など、生産基盤の強化による北海道和牛のブランド確立に向けた取組が求められています。
- このような中、令和9年に北海道で初めて第13回全国和牛能力共進会が開催されることとなりました。

第13回全共北海道大会では、北海道で生産される和牛や和牛肉の価値の向上を目的とするほか、北海道の魅力（観光・食）のPR、和牛肉の新しい価値観の発信などをコンセプトにしており、開催に向けて、北海道が量・質ともに全国有数の和牛産地となることを目指し、関係者が北海道和牛の生産の目標や振興の方向などについて共有し、それぞれの役割を担いながら連携して対策に取り組んでいくことが重要です。
- このため、北海道の和牛振興を図るための関係者の共通の指針となる「北海道和牛振興戦略プラン」を策定し、生産者をはじめ関係機関・団体が連携して具体的な推進対策に取り組んでいきます。

なお、「北海道和牛振興戦略プラン」は、「第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画」に即して取り進め、概ね5年を期間としますが、情勢変化に的確に対応するため必要に応じて見直すこととします。

Ⅱ 和牛を取り巻く情勢

(1) 和牛の生産

◆ 現 状

- 北海道の肉用牛飼養戸数は、近年減少傾向にあり、令和2年には2,350戸まで減少しました。また、和牛育種組合は2組合、和牛改良組合は54組合が認定され、生産や改良の中心となる組織の整備が進んでいます。
- 肉専用種の飼養頭数は、一時、大型法人の倒産により減少しましたが、令和2年には196,000頭と増加傾向で推移しています。また、近年酪農経営における乳用牛に対する和牛受精卵移植頭数が増え、和牛子牛生産頭数は増加しています。
- 子牛市場取引頭数は増加しており、全国的に和子牛の主要産地と位置付けられている一方、平均取引価格は、主要産地の価格をやや下回っています。

(表1-1) 肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移

(単位：戸、頭)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
肉用牛飼養戸数	3,000	2,830	2,820	2,680	2,620	2,600	2,610	2,570	2,560	2,350
肉専用種飼養頭数	206,300	194,500	180,300	176,000	168,600	170,500	177,300	186,600	188,700	196,000
黒毛和種	197,400	185,700	171,900	167,800	160,800	163,200	170,300	179,300	181,500	188,700
繁殖雌牛	84,800	79,800	73,700	71,600	65,800	72,700	73,700	75,100	75,600	75,600
肥育用牛	61,100	56,400	52,300	52,800	53,500	46,600	48,500	52,400	53,600	57,100
育成牛	60,400	58,400	54,300	51,600	49,200	51,200	55,100	59,100	59,500	63,300

(表1-2) 子牛登記頭数及び受精卵移植実施割合の推移

(単位：頭、%)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
子牛登記頭数	54,041	55,573	63,456	66,374	59,421	60,987	62,302	65,572	70,642	71,353
ET割合			12.7	14.8	16.1	17.0	18.0	21.6	23.3	26.7

◆ 課 題

- 北海道が持続可能な和牛産地として発展していくためには、後継者の育成や担い手の確保、リーダーとなる人材の育成とともに和牛改良組合の組織の充実などを図り、活動を活性化していくことが必要です。



(後継者研修会)

- 肉用牛生産は、多額の設備投資や運転資金が必要であり、投資資金の回収に長期間を要するといった特徴があることから、キャッシュフローや資産、損益等の状況を把握し、適切な経営管理を行う必要があります。
- 飼養頭数の増加や規模拡大・輸入飼料価格が高騰している状況において、低コスト施設の整備や自給飼料の活用など、北海道の優位性を活かした生産技術の推進や、スマート農業技術の活用による省力・効率的な生産が求められています。

(2) 和牛の改良

◆ 現 状

- 北海道の繁殖雌牛については、育種価判明率の上昇により産肉能力の把握が進み効率的な改良が進められています。また、血統については、種雄牛「勝早桜5」の娘牛の保留が進み、北海道の特徴である体積系の気高系が約4割を占めています。
- 繁殖雌牛の初産分娩月齢は26.6ヶ月、平均分娩間隔は410.5日、基本登録得点は80.8点といずれも全国平均より劣っています。
- 効率的な種畜改良・選抜に向けて、道総研畜産試験場においてゲノム育種価評価による改良体制の整備が進められています。
- 牛肉の食味性に関係するとされている脂肪の質(オレイン酸)と脂肪交雑の形状(新細かさ指数)について、データの収集と遺伝的能力評価が進められています。
- 全国和牛能力共進会では、出品を重ねるごとに成績は向上しており、第11回大会では、団体表彰6席を獲得しました。

(表2-1) 初産月齢、分娩間隔、登録得点の推移

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
初産月齢	全国	25.23	25.25	25.21	25.50	25.17	25.44	25.34	25.28	25.23	25.25
	北海道	26.09	26.20	26.18	27.90	26.18	27.57	27.27	26.97	26.70	26.56
分娩間隔	全国	412.16	412.85	412.74	413.87	413.40	412.44	411.04	409.75	408.21	407.75
	北海道	409.60	411.32	410.72	427.79	426.80	423.97	420.87	416.97	412.65	410.50
登録得点	全国	80.95	81.06	80.98	81.13	81.13	81.17	81.23	81.27	81.25	81.24
	北海道	80.31	80.30	80.28	80.49	80.65	80.74	80.75	80.77	80.73	80.76

(表2-2) 全共の成績

回次	開催年	開催県	出品頭数					入賞区分		
			全体	北海道			北海道			
				種雄牛	種雌牛	肥育牛	優等賞	1等賞	2等賞	
第7回	平成9年	岩手県	432	13	-	7	6	8	5	-
第8回	平成14年	岐阜県	469	17	2	9	6	9	2	6
第9回	平成19年	鳥取県	494	22	1	13	8	10	12	-
第10回	平成24年	長崎県	500	22	1	13	8	13	9	-
第11回	平成29年	宮城県	513	23	2	13	8	13	9	1



(第 11 回全国和牛能力共進会宮城大会)

◆ 課 題

- 地域の育成マニュアルを活用した繁殖雌牛の飼養管理技術の向上や高能力繁殖雌牛（育種価・繁殖性・体型など）からの保留牛の選抜など、生産性の向上が重要となっています。
- ゲノム育種価の精度向上とともに、生産者へフィードバックする評価システムの構築が必要となっています。
- 美味しさに関する形質（オレイン酸・新細かさ指数）を活用した種雄牛造成などの育種改良体制の構築が必要となっています。
- 北海道の資源を活用するための繁殖雌牛に必要な能力（環境適応性・飼料の利用性等）への遺伝的能力評価と種雄牛造成が必要となっています。
- 全国和牛能力共進会での上位入賞に向けて、和牛育種組合や改良組合の活動体制の強化や整備、組合員を増やす取組を進め、生産者・関係団体が戦略的に取り組んでいくことが重要となっています。



(光学測定機器によるオレイン酸の測定)



(全共出品牛選抜会)

注) オレイン酸：脂肪を構成する 24 種の脂肪酸の一つ。オレイン酸の含量は口溶けや風味の良い美味しい牛肉となる重要な要素です。

新細かさ指数：ロース芯の脂肪交雑形状の指標。指数が高いほど小さな脂肪粒子の数が多くいわゆる小ザシとなる。見た目も美しく食味性も良い傾向があります。

(3) ブランドづくり

◆ 現 状

- 和牛の肥育頭数は、近年増加傾向で推移していますが、道内でのと畜頭数は4割程度と多くは道外への出荷となっています。
- 枝肉形質・肉質については全国平均並の成績となっていますが、枝肉販売価格は、全国平均をやや下回って推移しています。
- 北海道内には現在 20 程度の和牛ブランドがありますが、一部の銘柄を除いて、流通量が少ない、入手先も地元などに限られるなどの現状にあります。
- 北海道の牛肉の輸出量は、年々増加しており、令和2年の輸出額は1億9千万円となっています。

(表3-1) ホクレン十勝枝肉市場格付成績の推移

	去勢						雌					
	A5						A5					
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	H26	H27	H28	H29	H30	R1
出荷頭数 (頭)	324	426	519	537	478	609	99	113	152	158	168	217
出荷割合 (%)	23.2	25.9	41.1	39.5	41.0	43.5	14.1	18.3	25.6	26.2	24.7	27.1
枝肉単価 (円/kg) ※税抜き	2,128	2,400	2,548	2,469	2,488	2,431	2,096	2,423	2,564	2,433	2,485	2,388
枝肉重量 (kg)	493.8	501.1	505.4	504.6	507.0	510.4	460.1	464.1	456.1	465.1	460.6	468.0
ロース面積 (cm ²)	67.8	67.7	66.3	67.7	68.0	69.4	67.9	68.7	66.5	67.5	67.2	67.7
ばら厚さ (cm)	8.5	8.3	8.2	8.1	8.2	8.3	8.5	8.2	7.9	8.0	8.1	8.2
皮下脂肪 (cm)	2.5	2.4	2.3	2.2	2.4	2.3	3.0	2.7	2.7	2.7	2.8	2.8
歩留基準値	75.4	75.3	75.1	75.3	75.2	75.5	75.5	75.8	75.3	75.3	75.3	75.3
BMS. No	9.3	9.3	9.3	9.8	9.7	9.7	9.2	9.1	9.3	9.6	9.5	9.6

◆ 課 題

- 北海道産和牛のブランド化を図るためには、肥育牛の生産頭数の拡大や道内向け出荷を増加させる取組が必要となっています。
- 北海道産和牛肉に対する知名度や理解が府県のブランド和牛に比べて十分とは言えない状況となっています。
- 北海道産和牛肉の美味しさや素晴らしさを道内外や海外へ発信していくことが必要となっています。



Ⅲ 振興方向

「北海道は日本を代表する和牛産地」として全国に認められる産地を目指します

(1) 和牛の生産

①人づくり・組織づくりに取り組みます。

北海道の和牛振興を推進するため、和牛改良を行う和牛育種組合や和牛改良組合の活動の活性化、和牛改良や肉牛生産に意欲的な生産者の支援及び経営の安定のための環境づくりに取り組みます。

(担い手育成、改良組合組織の強化、経営の安定)

②持続可能な生産基盤の強化に取り組みます。

飼養頭数の拡大や低コスト施設の整備、飼料基盤の整備などによる生産基盤の強化、スマート農業技術を活用した効率的な生産を図るとともに、アニマルウェルフェアへの適切な対応やSDGsの推進に取り組みます。

(生産の拡大、飼料基盤の整備、スマート農業、AW、SDGs)

(2) 和牛の改良

③繁殖雌牛の能力向上と適切な保留を図ります。

産肉能力や種牛能力を兼ね備えた次世代の優良繁殖雌牛の保留を進めるとともに、道産種雄牛の活用により、血統的特徴のある繁殖雌牛群の整備を目指します。

(優良繁殖雌牛群の造成、遺伝的能力向上)

④特色ある種雄牛の造成に取り組みます。

優秀な種雄牛の造成は、生産牛の能力向上や牛肉の品質向上、子牛価格の安定につながることから、関係機関が連携し、北海道らしい特色のある種雄牛を造成します。

(育種組合の活動強化、道産種雄牛の造成)

⑤全国和牛能力共進会での上位入賞を目指します。

全国和牛能力共進会での上位入賞は、産地の評価につながることから、令和9年度の第13回全共北海道大会の開催に向けて、生産者と関係者が一丸となり上位入賞を目指します。

(出品技術の向上、優良繁殖雌牛の保留支援、知名度向上)

(3) ブランドづくり

⑥道民が食べたい北海道産和牛肉のPR活動に取り組みます。

消費者に美味しい和牛肉と認知されるため、道内産肥育牛の生産頭数の拡大や道内向け出荷を増加させるとともに、食味性など道産和牛肉の特徴を分析し、その良さのPRや、生産・改良への活用を進めるほか、北海道のイメージを活かした各産地で共有できるブランドをつくり、地域ブランドと一体的にPR活動を進めます。(優位性のPR、ブランド創出)

⑦北海道産和牛肉を道外、海外に発信します。

国内はもとより海外にも浸透している「北海道」のイメージを最大限活用し、北海道で生産された和牛肉であることを国内外の消費者に向けて発信します。

(全共開催と併せた情報発信、道のプロモーション活動等との連携)

IV 推進方策

(1) 和牛の生産

①人づくり・組織づくり

具体的な方策

- 和牛育種組合や和牛改良組合が行う共進会などの活動を支援するとともに、和牛飼養管理技術の向上に向けた研修会の開催など組合活動の活性化を図ります。
- 中核的な生産者を対象とした次世代リーダーの養成を図るため「和牛マスター研修会」を開催します。
- 若手生産者や関係機関を対象に地域の登録事業や審査に精通する技術者の養成を行うなど、「集団による和牛改良」という基本理念の継承を図ります。
- 安定した和牛経営を図るため、適切な経営管理を行うための経営改善指導や、肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定制度などの経営支援制度の活用を推進します。

②持続可能な生産基盤の強化

具体的な方策

- 北海道の和牛生産の拡大を図るため、各種補助事業を効果的に活用して子牛生産の増頭や生産基盤の整備を支援します。
- 豊富な土地資源を背景とした粗飼料の有効活用や家畜排せつ物の適正処理、地域内での耕畜連携の取組を推進します。
- 受精卵を活用した和牛子牛生産やスマート農業技術を活用した効率的な生産体制の構築に向けた取組を推進します。
- SDGsの達成に向けた取組や、和牛生産をとりまく環境や動物福祉に関する世界的な課題に適切に対応するなど、持続可能な生産に向けた取組を推進します。

(2) 和牛の改良

③繁殖雌牛の能力向上と適切な保留

具体的な方策

- 繁殖雌牛の体型得点向上のため体型線形形質の評価法の検討を進めるなど、本道の環境に適する繁殖・哺育能力の高い雌牛の改良を関係者一体で進めます。
- 育種牛や高等登録牛を中心とした優良繁殖雌牛の系統内での後継牛の保留を進めることにより、優良繁殖雌牛基盤の整備を図ります。
- 北海道推奨種雄牛を中心とした道産種雄牛の活用を図り、血統的特徴のある繁殖雌牛集団の造成を図ります。
- ゲノム育種価や受精卵移植技術など関連する技術開発を推進し、優良繁殖雌牛群の改良を加速化します。
- 道産種雄牛を父とする雌産子の保留割合を上げることにより、道独自の繁殖雌牛集団を多数形成するとともに、家畜共進会への道産種雄牛産子の出品により、道産種雄牛の評価向上を図ります。

④特色ある種雄牛の造成

具体的な方策

- オール北海道の関係機関・団体等からなる種雄牛造成を検討する場を設け、改良の方向性の協議や情報の共有を図り、北海道らしい特色ある種雄牛を造成します。

- ・ 美味しさなどの消費者のニーズに合った、きめの細かさや融点の低い脂肪など新たな価値観を創造する種雄牛
- ・ 種雄牛の産肉能力検定において、効率的な増体性の指標となる直接検定の実施と育種価評価により種雄牛を選抜し、北海道の広大な土地資源を最大限活かす飼料利用性の高い種雄牛
- ・ 産肉能力のみならず、体型や繁殖性、強健性などの種牛能力を持った種雄牛

- 受精卵ゲノム育種技術等を活用し種雄牛造成の加速化を図ります。
- 血統情報だけでなく、ゲノム情報から得られるDNAストラクチャー解析による血統構成を考慮した、田尻系、気高系、藤良系の各種雄牛を造成します。

⑤全国和牛能力共進会での上位入賞

具体的な方策

- 全共上位入賞に向けて、出品技術を指導する技術者の養成や技術研鑽の支援など、生産者と関係機関・団体が一体となって取組を推進します。
- 毎年実施される市町村、振興局、全道段階の共進会を通じて、仲間づくりと出品技術の向上を図ります。
- 全共上位入賞するため、全共候補牛となる優良繁殖雌牛の保留推奨のための支援を行います。
- 北海道の和牛をPRするため、体の深さや腹容など北海道らしい特徴を持つ繁殖雌牛や肥育牛の生産を目指すとともに、さまざまな研究成果と技術を取り入れた出品牛選定に取り組みます。

(3) ブランドづくり

⑥道民が食べたい北海道産和牛肉を目指したPR活動

具体的な方策

- 道民をはじめ多くの消費者に親しまれる牛肉となるため、さまざまなニーズに沿った道産和牛肉の提供が必要であることから、実需者との意見交換等を踏まえ肉質・形状の分析・評価手法を検討しPRに活用するとともに、品種の特性を活かした肥育技術等の開発・普及により、生産・出荷の拡大を図ります。
- 北海道産和牛の肥育牛の生産頭数の拡大を図るため、繁殖から肥育までを行う一貫経営への移行や、肥育センターの整備等による地域一貫体制の構築など、地域に適した生産体制を推進します。

- 北海道産和牛肉の知名度向上のため、道内の肥育生産者や食肉・流通関係等による検討の場を設け、北海道のイメージを活かしたブランドづくりや消費拡大に向けて生産者や関係団体が連携して必要な取組を進めます。

⑦北海道産和牛肉の道外、海外への発信

具体的な方策

- 「北海道食の輸出拡大戦略」に基づき北海道が実施するプロモーション活動等の取組と連携するなど、北海道産和牛肉の海外への情報発信を図ります。
- 第13回全国和牛能力共進会北海道大会は、北海道産和牛肉を世界にPRする大きなチャンスであることから、生産者・関係団体や関連する業界団体の連携・推進体制を整備し、オール北海道で情報発信に取り組みます。

V 推進体制

北海道和牛振興戦略プランの推進に当たっては、全道段階、地域段階、現場段階において、生産者や関係機関・団体がそれぞれの役割を果たしながら連携を図り、このプランをより実効性あるものにするため、具体的な対策を協議・推進します。

○ 各段階の推進体制

1 全道段階

北海道和牛生産戦略会議（事務局：(一社)北海道酪農畜産協会）

構成：北海道和牛振興協議会、北海道、(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場、北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、(公財)北海道農業公社、(一社)ジェネティクス北海道、(公社)北海道畜産物価格安定基金協会

2 地域段階

地域和牛振興協議会（事務局：農協(生産)連、ホクレン支所）

※北海道((総合)振興局・普及センター)、農協(生産)連、連合会支所等の関係機関

3 現場段階

和牛改良組合、和牛振興会等（事務局：農協、市町村）

※北海道(普及センター(支所))、農協、市町村等の関係機関

○ 各関係機関・団体の主要な役割

主要な役割	関係機関・団体
和牛改良組合の活動強化	北海道和牛振興協議会
育種組合の活動強化（道産種雄牛造成等）	和牛育種組合
優良雌牛群の造成・飼養管理技術の向上	和牛改良組合等
農業団体内の調整、和牛振興に係る政策提案等	北海道農業協同組合中央会
生産物の有利販売等	ホクレン農業協同組合連合会
市場整備と共進会、共励会の充実	
生産組織の育成、支援対策の実施等	(一社)北海道酪農畜産協会
改良、登録に関する指導、情報提供等	
肉用子牛生産者補給金制度への加入促進	(公社)北海道畜産物価格安定基金協会
優良種雄牛の造成・確保と精液の配布	(一社)ジェネティクス北海道
優良雌牛の導入と貸付等、飼料基盤の整備	(公財)北海道農業公社
育成牧場の活用による種畜の供給	
育種（ゲノム）、改良に関する情報処理、指導	(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場
道有種雄牛の生産	
ゲノム育種技術の高度化に向けた試験研究	
和牛生産の振興に向けた支援、道有種雄牛の造成	北海道
地域和牛振興協議会との連携・協力	(総合)振興局、普及センター
生産者・生産者組織への技術支援	(普及センター支所)
振興局との連携、生産者・生産者組織への活動	農協(生産)連、農協、市町村
支援、登録制度を活用した現地指導	